

第 63 回役員会議事要録

日 時：平成 26 年 12 月 25 日(木) 15:00 ~17:00

会 場：小倉サテライトキャンパス

出席者 <委員>石原理事長、利島理事、片山理事、江本理事

<オブザーバー>中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長

報 告

- 1 次期学長の選考結果について
- 2 学長補佐体制の充実及び副学長等の選考について
- 3 教員の採用について
- 4 創立 70 周年記念事業について
- 5 新図書館建設工事の契約について
- 6 法人評価委員会の評価結果（平成 25 年度）について
- 7 地域貢献度ランキングについて
- 8 推薦入試の結果及び今後の入試予定について
- 9 平成 26 年度卒業予定者の就職内定状況について
- 10 國武名誉教授の文化勲章受章について
- 11 平成 26 年北九州市立大学関連情報のメディアでの掲載結果について

報告 1 次期学長の選考結果について

<質疑応答>

- 自己評価も含め、学長業績評価が全大学の中で最初に実施したということであったが、本当か。
- そうである。学長業績評価の導入と実施結果については、文部科学省、公立大学協会、大学基準協会等、関係先に資料を送付している。
- 他大学で本学に引き続き実施しようとしているところはあるか。
- 他大学から問い合わせの電話があったと聞いている。
- 実際に動き始めた大学はあるか。
- 本学では把握していない。
- 現在各大学でガバナンス改革を進めているため、参考にすると思う。
- 前例がないので、今回は自己評価したものを検証したが、専門的なことを評価するので、基本的には大学の外部評価を参考にしながら、学長個人の業績と照らし合わせて評価した。評価を実施するにあたっては大変であった。
- これからの課題である。
- 今回自己評価されたことは非常に良いと考えている。自己評価に賛成しない学長もいると聞いている。そのような中、学長の決断はよかったと考えている。
- 他大学で学長の評価は聞いたことがない。大きい大学では、学長副学長が考えているが、今の大学は会社に近いマネジメントをしているところが増えている。他大学では番頭やGMにあたる方は結構いるが、本学はブレーンを担っていると思っていた。学長がすべて考えていくというよりはおそらく副学長や理事が意見を出し合っとうまく調整されていると感じている。まわりの方もきちんと本学を支えられていると感じている。
- コミュニケーションが大事である。本学は、規模の割にはコミュニケーションが取れていると感じ

じている。

報告2 学長補佐体制の充実及び副学長等の選考について

<質疑応答>

- 規程を見る限り、副学長や学長補佐が今後どうなるかわからないが、本学の教職員でない場合が適当かどうかといった課題がでてくるのではないかと。規程上、これを妨げるものではないが、内規的に教職員と決まっているのか。
- 他大学の状況を見ると、副学長や学長補佐については基本的には教職員であるが、将来的には可能性はある。
- 外部の人を雇用してはどうか。
- 外部の人は排除するものではない。
- 地域経済との関係を考えたら特命の学長補佐が必要だと考える。
- 学長が任期中に何かあった場合、副学長や補佐が代行するか。
- 副学長が代行することとなっており、松尾副学長が代行することとなる。
- 役員会と学長の役割分担はどのようになっているか。例えば、学長の管理運営の役割と役員会の役割の違いである。本学も法人化しており、経営上の採算を考慮するにはマーケティング担当が必要と考えるが、副学長がふさわしいのかどうかというのがある。管理運営を行うにあたり、学長の役割はどうなっているか。
- 大学の教育や研究に関連することは教職員を中心にして行う。それを司っているのは学長である。つまり、学長は北九州市立大学の運営主体になる。公立大学法人北九州市立大学は独立行政法人であり、法人の副理事長も兼ねている。学長は研究を行い、同時に大学の運営にも関わることから、両方を兼ねる役割を担っている。学校を運営する独立行政法人については、理事長、副理事長である学長が中心となる。その中で、経営審議会においては、特に経営的なことについて各委員のご意見を伺う場である。
- 副学長は理事である副学長と理事でない副学長がいる。役員会は全重要事項の決定機関になっている。学長は副理事長を兼ねる。
- 学長の評価対象に管理運営が任されるということである。
- 法人に学校が一つしかないためわかり難いが、学校が複数あると役割が明確になる。
- 教育研究に関しては教育研究審議会が中心となる。
- 規程の3条が非常に大事である。学長が選考を行って承認を得るとなっていたのが、教育審議会の議を経て学長が行うこととなり、これがガバナンス改革である。学長が決定することが明確になっている。人事は組織運営の基本である。
- 昔は全て教授会で決定していたことを、法人化後はこのような運営体制にしている。

報告3 教員の採用について

<質疑応答>なし

報告4 創立70周年記念事業について

<質疑応答>

- ポスターやクリアファイル等で、外部に発信していけば皆さんの記憶に残ると思う。
- 寄付金の目標金額1.4億円とのことだが、目標に満たない場合はどうするか。
- 1.4億円を集めることは難しく、集まらない場合は、後援会の方から予定されている3.7億円の寄付を図書館やサークル会館に使う予定にしておき、残りの余剰分を充当することを考えている。場合によっては厚生会館など施設関係を少し縮小しないといけない。

- この大学は全体的にグローバルへの方針が強いが、対外的にアピールする材料を様々な視点から作っていくことが重要である。ポスターもクリアファイルもいいデザインだと思う。ラッピングの方は、マットな雰囲気が出ている感じがするので、もう少しポスターのような爽やかさが欲しい。
- バスのことか。
- バスのことである。
- 色は再考したほうがいい。
- このような企画は、70周年の盛り上げになる。大学の正面玄関にはポスター等掲載しているか。
- 建物内には掲示しているが、外にはしていない。
- 外にも掲示して通行者や通りがかった車等に見えるようにした方がいい。
- ポロシャツ、Tシャツやウィンドブレーカーなども作成してはどうか。
- Tシャツは原価1,000円程度で作成して3,000円で購入してもらってはどうか。
- 今頂いた意見を参考にしながら、70周年に向けて進めていきたいと思う。
- 新図書館の建設にかなり費用がかかるが、武雄市の図書館も例にあるが、ラーニングコモンズのような特徴をうまく活用し、学生が行きたいと思う大学にしてほしい。
- 図書館の担当は誰か。
- 松尾副学長である。
- 武雄市図書館内のコーヒーショップの売り上げもいと聞いている。
- 大学は週末休みのため、業者がはいつてくれるかという問題がある。
- 図書館は斬新なデザインであるため、その部分についてもPRしていきたい。
- 図書館は土曜、日曜も開館すべきである。
- 現在は土日でも開館している。
- 利用者はどれくらいか。
- 平日で1日約600人が利用している。土日は主に市民が約100人利用している。
- 新しく、コーヒーショップがあり、楽しければ利用は多くなるだろう。
- 演奏会などは実施可能か。音楽会や美術展を開けば人を集められる。ここの大学に来たいと思えるようしていただきたい。
- 本は本で貴重だが本の制作の歴史がみられる博物館的要素はいかがか。博物館だと費用はかかる。文京区に東洋文庫という文庫があり、本だけでなく、展示品もあり、つながりで見ることができる。また関連するグッズも販売してあり、ミュージアムショップもある。大学の中でそういうことができるかわからないが、これからはインターネットが現実にあるような感覚、写真も見られて文書も検索できて、図書館の中でものとしていっぺんに見せられるような空間づくりにできないだろうか。
- 音響や映像の設備は行う予定である。
- その設備をどう使うかである。誰が責任者か。
- 松尾副学長であり、ラーニングコモンズの運用を検討している。
- 今日の意見を踏まえ、松尾副学長に検討していただきたい。
- 大学で開発したものを商品化することがよくあるが、北九州市立大学は実施しているか。
- 実施している。国際環境工学部の森田先生が、竹粉をパンに入れて商品開発しており、来年2月に販売する予定である。また、先行して、中国の麴を混ぜた「ひびきのの杜」という日本酒を販売したが、それをさらに次のステップにつなげていきたいと考えている。
- いい大学にはグッズ販売所があるので実施してはどうか。
- 商品をアピールしていく必要がある。
- 専門家が書いた地域の関係資料は貴重である。そういったものを図書館のコーナーに置くことは

可能か。

○不可能ではないと思う。

○70周年の中で、学生の立場で何をしようとしているのかが全く見えてこない。ステークホルダーの中で最も大事である学生を活かさないで、図書館がただの箱ものになってしまう。学生がどう使うかという視点で考える必要がある。

○現在でも図書館に学生サポーターという組織がある。ラーニングコモンズを検討するときには学生の意見を取り入れる可能性はある。

○ラーニングコモンズ委員会を立ち上げているが、学生の意見は聞いていない。

○一回学生の意見を聞く機会を設けたほうがよい。

報告5 新図書館建設工事の契約について

<質疑応答>

○12億5,280万円と11億6,000万円はどう違うか。

○12億5,280万円は税込金額である。入札は税抜の価格である。

報告6 法人評価委員会の評価結果（平成25年度）について

<質疑応答>なし

報告7 地域貢献度ランキングについて

<質疑応答>

○各項目のポイントのウェイトはないのか。

○去年まではウェイトを全部公表していたが、今年からは公表しないこととなった。

○ウェイトはあるのか。

○ある。

○どの項目に力入れたらいいが点とれるのか。

○学生・住民に関する項目はウェイトが高い。あとは企業・行政に関する項目である。この二つの項目が高い。

○地元就職率も地域貢献になることからポイントが高い。

○地元に全員就職する事がいいかどうかという問題がある。世界に羽ばたく人材を育てるという視点もある。

報告8 推薦入試の結果及び今後の入試予定について

<質疑応答>

○今日北方キャンパスに多くの高校生がいたが、何かイベントを実施しているか。

○模擬授業を実施している。大学の授業の体験を昨日と今日の2日間で実施した。

報告9 平成26年度卒業予定者の就職内定状況について

<質疑応答>

○採用活動時期の後ろ倒しに伴い、授業を就活のために休む学生が減ったというようないい影響があったか。本来はそのような理由で企業が協力したと聞いている。このような状況であっても授業を休んで就活をしている学生がいるか。

○これまでは3年生の途中から学生がゼミを欠席し、授業が成り立たない状況があったが、多少改善されていると聞いている。1,2年生で履修可能な授業についても単位がとれていない学生は3年生になって受講するが、その際、就職活動を理由とする欠席届は減少している。ただ、今後の

インターンシップの実施状況により以前のような状況になる可能性はある。

- このインターンシップの数は海外インターンシップの数も含むか。
- 含まない。
- 就職採用活動と間接的に関わるが、グローバル人材育成事業の方でも海外インターンシップを義務付けているプログラムもある。平成 25 年度から本学にインターンシップ開拓のために特任教授を雇用しているが、その教授の努力もあり、この夏は 51 名の学生がヨーロッパ、シンガポール、ベトナムでの海外インターンシップに参加した。このような活動がこれからのグローバルな人材を求める企業にアピールしていきたい。
- インターンシップは学問とは多少離れていてもそれ自体が課外授業であり、単なる就活とは異なる。
- 就職決定率が高いのは、景気が良くなったからか、それとも学生の質が良くなったからか。
- 本学の話であるが、キャリアセンターの利用者数が去年は 3 割増となったことで、支援できる学生が多くなったことが原因と考えている。
- 就職の把握率も高くなったのではないか。
- 学生に直接電話で尋ねている。まだ決まってない学生にはキャリアセンターに来るよう呼びかけを行っている。

報告 10 國武名誉教授の文化勲章受章について

< 質疑応答 >

- 毎年ノーベル賞の候補に挙がっていると聞いており、文化勲章も受賞されており、素晴らしい研究である。

報告 11 平成 26 年北九州市立大学関連情報のメディアでの掲載結果について

< 質疑応答 >

- 外部委員の方の活動も素晴らしいし、ビブリオバトルでの活躍も素晴らしい。
- 広報の方から新聞、テレビ、プレスリリースや記者会見での発表などは昨年以上に実施したか。
- 月に一回、PR する案件を集約し、その中からピックアップして投げ込み等実施している。